

岐大通
2010



完敗なのか、惜敗なのか。
岐阜 0-1 甲府【第03節】

甲府サポーターの気合の入りがすごい。あくまでも前向きに。聞けばここまで勝ち星がないとのこと。ホーム開幕戦時に余った分でも活用したのがコレオグラフィまでやってきた。「長良川で仕切りなせ！」というメッセージだろうか？試合は岐阜にとっては厳しい立ち上がり。フィジカルで完全に負けてしまっている。2ヶ谷だけを前線に残して18左藤も守備に追われるシーンが何度もあった。とはいえ甲府の攻撃もバタバタしていて正確性に欠ける。スコアレスで「折り返せるといいな」というささやかな願いは、果たして現実のものになった。これはラッキー、修正できる。後半岐阜は早めの選手交替で攻勢に出ようとする。でも結果的にバランスを崩してしまったようだ。守備から攻撃の切り替えが次第にもたつくようになる。修正どころではないか……。そして8分近くで痛恨の失点。正直に言えば直感的に「うわー、ドローに持ち込めない」と感じてしまった。それくらい勝利のにおいのしない試合運びでした。今後への修正点は分かりやすくかつ少なくはないでしょう。それだけにゆっくりでよいので確実にステップアップしてほしいです。(ST57)

「正吾がアタマからだ、選手交代という劇的な化学変化は期待できないなあ。」というのが、スタメンを知った時の率直な感想。出足不調な甲府が相手とはいえ、こちらも新システムが未だ手探り状態の中で、少なくとも先制はされたくない。前半は0-0で十分。開幕戦や大分戦同様、相手のラインが間延びしてきたところでジョーカーとして嶋田を起用するんだろと思っていたが、監督はいきなり仕掛けたかな。もちろん、小兵ながらスタミナには定評のある嶋田のスタメンはサブプライズでもなんでもない。昇格が至上命題ながら、閉塞感がありフラストレーションが溜まってそうなる甲府に、先制攻撃を掛けてほしかったのだが……。やるうとしているサッカーは問題ない。ボールを奪わなければ攻撃は始まらない。そのための組織的な守備が、倉田新監督の標榜する「ゾーン・ディフェンス」なんだと思う。ただ、ピッチ上で表現しようとしているサッカーには、まだごちなさや不慣れな様子が見て取れる。ゾーンという自分の受け持つ範囲とその受け渡しに積極性と連動性が少なく、その結果低い位置でのボール奪取が多くなり、昨年のようなショート・カウンター、スピード感のある守備から攻撃への切り替えが少なくなっているように見える。さらに、昨年とは違うポジションの選手が多い分、手探りの状態というかイマイチしっくりきていないようにも見えた。少なからず得点の匂いのするアタックはあるのだけれど、ラストパスや裏へ抜け出すタイミングとかのイメージや予測の共有がまだまだだな、という感じかな？そのところで、調子が上がってないとはいえず、昨年も最後まで昇格争いをした甲府に余裕と落ち着きを与えてしまい、前半はさほど変わらなかったシュート数が後半には差が開き、防戦を余儀なくされてしまった。もうひとつ開きがあるのは、選手層の違い。決勝ゴールはよりによって途中出場の淳至だったけれど、アシストしたのも交代に入った金信泳。嶋田をスタメンで使ってしまったウチとの差が出たのかもしれない。本来ならば、練習やTMでレギュラーを凌駕してスタメンを奪うというのが筋だろうが、J1を目指すためには、さらにレベルアップしていく必要がある。ガチンコの試合の中で経験を積んでほしい。ズルイ言い方もかもしれないけれど、今季はまだ余裕がある。J2から降格する心配はないからだ(苦笑)。逆境をチャンスとして、どんどん前進してほしい。チーム・スローガンのように！それにしても、甲府の20番。よくもやってくれたな(笑)。このお返しは最終節の小瀬で必ず……。 (ぐん、)

FC岐阜は長良川で甲府と戦い0対1で敗戦。元チームメートの片桐選手に決勝点を決められる微妙な気持ちでの敗戦でした。でもリーグ戦は始まったばかり。サポーターが一丸となってFC岐阜を盛り上げよう！FC岐阜頑張れ！(ハマッチ)

悔しい、非常に悔しい敗戦となってしまった。さして調子がいいとも思えない甲府に勝てなかったことそして、決勝ゴールを決められてしまったのが片桐淳至だったということだ。内容は結構互角だったように思えたのだが、スタッツを見るとシュート数が4本。これでは勝機も見出せない。遠目からでも思い切ってフィニッシュに持っていく積極性が欲しいところだ。途中からはお互い我慢比べのようなサッカーになっていった感じだったが、最後に根負けしたのは、若さが出てしまったのが。両SFが簡単に突破を許していたのは、非常に気になる。また、押谷にボールが集まるが多かったせいもあるのか洗一がほとんどの時間帯消えてしまっていた。代わって入ったギドンも足下に欲しいのが、裏に抜けるボールが欲しいのはいちよく分からなかった。相手GK荻との1対1のビッグチャンスもあったが、決められなかったのは残念。まだまだ完全にチームにフィットしきれてないが、あるいは言葉の壁による意思の疎通が図りきれないといったところだろうか。試合後の倉田監督のコメントも気になった。チーム内でのコミュニケーションはしっかり取られているのだろうか……心配な部分だ。あと、試合後にTVのインタビューを受けて引き上げてくる片桐に対して拍手を送る岐阜サポーターがいなければ、正直自分には理解できなかった。確かに片桐は岐阜出身だし、昨年途中までは紛れもなくチームの中心選手だったわけだから思い入れのある人も多いかもしれない。ただ今はヴァンフォーレの選手。敵なのだ。戦うべき倒すべき相手なのだ。試合前の選手紹介の場面で拍手を送る、これは良い事だとは思う。しかしながらピッチに立てば話は別だ。試合に負けても、片桐にゴールを決められるのは別に構わないのか？個人的にその光景を見て、少し腹立しくなってしまった。チーム全体にも、選手個々にもまだまだ課題があるだろう日々の練習で、そして試合で改善を図ってほしい。一朝一夕には結果には現れないかもしれないし、我々サポーターにも我慢の日々が続くかもしれない。でもチームが熟成されていくのを楽しみに、今日もメモリアルに足を運ぶ。今日の相手はコンサドーレ札幌。昨年1度も勝てていない相手。J1昇格がかかっているチームだが、一泡吹かせてやりたいところ。そして、改装前の長良川競技場での最後の試合を白星で飾って欲しい。(岐阜の誇り)

後半39分、左サイドをえぐられた時大外からゴールに向かって走ってくる甲府の選手。中に鋭いクロスが入ると体ごと押し込み決勝点。「まさか！」と思ったら案の定「片桐淳至」。その瞬間私は失意ではなく歓喜だった。最高のプレーと結果で魅せてくれるプロの魂を体感。試合後片桐がコアサポーターに向けて一礼。一度屋内に入りながらわざわざ出てきてである。わずかな時間だが彼の人間的成長を感じずにはいられなかった。地域リーグから彼を知るサポーターの一人として、こんなに嬉しいことは無い。確かに負け試合を見せられたという意見もある。だが私のように受け取る人達もいる。地元に残るチームがあるということは、こういった機会がたくさん存在するという。それだけ「FC岐阜」というチームの存在は地元にとって大きい。Jリーグへの借金返済も含め、今は課題を一つ一つクリアしていくこと。それをしっかりと見守ってゆきたい。(ち～な)

today's guest

コンサドーレ札幌

2009 J2第6位

J2通算対戦成績 : 0勝 0分 3敗

2009成績

第1節 09/05/16 札幌3-0岐阜

第3節 09/08/16 岐阜0-2札幌

第4節 09/11/22 岐阜2-4札幌

2010J2 順位表 第0節

(※消化試合が1少ない)

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1 徳島	12p	+6	9	3
2 柏	10p	+4	5	1
3 福岡	09p	+9	11	2
4 横浜FC	09p	+5	7	2
5 熊本	08p	+2	4	2 A
6 千葉	07p	+1	6	5
7 札幌	07p	0	4	4
8 水戸	06p	+1	3	2
9 大分	06p	0	8	8 A
10 栃木	04p	+1	5	4
*11 甲府	04p	-1	3	4 H
* 鳥栖	04p	-1	3	4
13 愛媛	04p	-1	2	3
14 岡山	04p	-2	1	3
15 北九州	04p	-3	2	5
16 岐阜	03p	-3	3	6 --- ---
*17 東京V	00p	-4	1	5
18 草津	00p	-6	1	7
*19 富山	00p	-8	2	10 H

次回 HomeGame

第7節
東京ヴェルディ戦

4/18(日) 16:00

@長良川球技メドウ

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

FC岐阜大好き通信(岐大通)

4/4号

編集発行:『岐大通』製作委員会

今号の製作担当: ささたく & 吉田 鎗造

編集子より

ご愛顧いただきありがとうございます。今シーズンは2年ぶりに「全ホームゲーム」での発行を目標にしますので、よろしく願い致します。

とは言え、シュート3本ではね.....。

熊本1-0岐阜【第0節】

FC岐阜はアウェイで熊本と戦い0対1で敗戦。シュート数3本では.....。攻撃陣はもっとシュートを。でもリーグ戦は始まったばかり。サポーターが一丸となってFC岐阜を盛り上げよう！FC岐阜頑張れ！（ハマッチ）

ここまでお互いに3試合を消化してきて熊本は負けなしの1勝2分で勝ち点5、FC岐阜は1勝2敗の勝ち点3。岐阜が勝てば熊本の勝ち点を越えて順位が上になると言う計算です。2節大分戦、3節甲府戦とゲームを重ねるに連れて守備の形は整ってきていると思います。それだけに攻撃の形さえ整えば勝てない相手では無いと思っていました。

大分戦よりは多少少ない岐阜のゴール裏には将来のFC岐阜を背負ってくれる選手が出てくるであろうFC岐阜U-18が合流。学校の春休みを利用して九州遠征に来ていたようです。FC岐阜の選手も当然気づいていてでしょう。しかし結果が出ない。たったひとつのトラップミスを相手の選手にかっさらわれて、この日も好調をキープしていたG野田の動きを見てしっかり決められてしまいます。

FC岐阜の攻撃はというと、前半は後方からのフィードにキドンがよく合わせてポストプレーをしていたように思えます。そのボールを押谷、嶋田が持ち上がり、バイタル付近まで押し上げる事はできませんが、なかなかシュートまで行きません。後半には左サイドから野垣内がたびたび攻撃参加しますが、あと一歩踏み込めず、遠目からのクロスが上がります。フリーでシュートが打てないのも、あと一歩の動きが足りないからでしょう。

何がいけないのか、なぜ勝てないのか。選手もサポーターも苦悶の毎日が続きます。思い起こせば開幕戦。あのゲームで勝つ事ができて本当に良かったと思います。あの日勝つ事ができなかつたら、第4節終了時の富山のように最下位に沈んでいた可能性さえあるわけです。

倉田監督は就任会見の時におっしゃいました。「首位争いに加わりたい」と。首位との勝ち点差が少ない今なら、まだまだ巻き返せます。そして迎える第5節の札幌戦。この試合を最後に長良川競技場とは数カ月お別れになります。今の長良川競技場を笑って送ってあげられるよう、選手を後押しできるよう、いつもより多く声援を送りましょう。（流石）

「久しぶりに、目も当てられない試合だったなあ」というのが現地での感想だったけど、帰宅して録画観戦してみると、案外そこまでヒドクもない。たしかに、前半の45分までは十分期待が持てる内容だったし、それは現地でも感じていた。相変わらず、好機は演出すれども決定機には至らず、だった（苦笑）それが、たった1本のミスパスで状況が一変。本当に悔やんでも悔やみきれない。

たかが2連敗（熊本戦前まで）くらいで焦る必要はないのだが、今は先制されるとどうしてもプレッシャーを感じてしまうようだ。そんな中でも、基樑は前節より調子が出てきたように見えた。ポストとしてのポテンシャルを、何度も垣間見させてくれた。惜しむらくは、コミュニケーションが完全ではないためか意思の疎通が図れず、せっかくキープしたボールの受け渡しがうまくいかなかった印象だ。たしか一度だけ放ったシュートにも、可能性が感じられた。押谷や洗一とのコンビネーションが合ってきたら.....、と妄想せずにはいられない（笑）押谷も不運なカードをもらってしまったけど、少しアツクなりすぎた嫌いがある。それでも、その技術の高さは疑いようもない。福岡戦以降の奮起を切望する。洗一も好調とは言いがたいが、昨季の初出場は4月15日第8節の仙台戦。初ゴールは第9節の湘南戦。それと比べれば、調子の出ない中で得点を挙げ、惜しいシュートも打っている。一刻も早い爆発を期待している。秀人は、ボランチタイプではないがディフェンシブ・ハーフ、ファースト・ディフェンダーとして可能性を広げてほしい。それに、秀人の前へ出る力、攻撃参加の能力は岐阜の守備的選手の中では秀でている。それは、昨季の水前寺でのゴールが証明している。最終ラインからあの上がりぎできたのだから、一列前に出た今季はもっと攻撃に絡んでほしい。今はまだ守備優先だろうが、チャンスはきつとくる。彼のゴールが楽しみだ。

ところで、いつのまにか開幕してから一ヶ月が過ぎてしまった。この一ヶ月を1勝3敗、得点3失点6。16位と下位に沈んではいるものの、昨年は開幕一ヶ月で2勝3敗、得点3失点7。試合数の違いはあるものの、成績自体はそんなに変わらない。染矢の劇的決勝ゴールに沸いたあとの4月が未勝利2分4敗、5得点13失点。長良川での無敗記録が始まったのは黄金週間5月2日の東京V戦から、ということ考えれば「長良川劇場」と称された昨季も、開幕直後は不安と焦りで五里霧中。あの時のことを思い出し、選手やスタッフを盛り上げていきたい。もちろん、勝利を得るために最善を尽くしてほしいが、拙速に結果のみを求めることなく選手やチームの可能性を広げ、能力を花開かせるようなサポートをしていきたい。さて、今日は改装前の長良川でのラスト・ゲーム。月も変わったし、前進し続けるために、新たな気持ちで臨みたい。記憶に残るようなアツイ試合にしてやろうぜ！（ぐん、）

現地で応援していましたが、前節の甲府戦よりも悪化しているように感じました。名古屋とのP S Mや開幕戦のような勢いがなく、とても歯がゆかったです。

同期に負けた事もそうですが、昨年から見せてくれた岐阜らしさがなくてとても悔しかったです。（プラウ@翠魂）

第4節熊本戦は自宅にてスカパーで応援。試合開始前の岐阜側応援席の映像を見ていたらユースの選手の面々が映っていた。ホーム試合の時はいつも運営ボランティア「グリーンズ」と一緒に裏方として頑張っている彼ら。「何で熊本にいるの?」と思っていたら鹿児島遠征の途中に寄ったのだとアナウンサーの方がコメントしていた。以前福岡での試合にバスで行った話を聞いたので、今回も多分バスに乗って鹿児島まで遠征しているんだろうな~と思うと純粋に頑張ってくれたいと思いたい。トップの試合内容については他の方の記事を参照して下さい（苦笑）（シュナ）

悔しい、歯痒い敗戦となってしまった。現地にいたサポーターの中には、悔しさのあまり泣き出してしまふものもいた。試合の立ち上がりこそ、そこそこの動きを見せていたものの全体を通してシュートが3本。これでは勝機すら見いだせない。そして、集中を切らしてはいけない大事な時間帯に軽率なプレーからボールを奪われて失点。昨年から時折見られる終了間際の失点という悪癖が直っていない。また、トラップやパスなどの簡単なミスも目立ちある程度のエリアまでボールを運べても、フィニッシュまで持っていく相手にはボールを取られてしまっている。シュートの少なさというのがこういうところから繋がってくるのではないだろうか?あそこ橋本の交代は早かったような気がするし、そんなに悪い出来ではなかったと思う。実際に彼を下げたことで、失点にこそ至らなかったもののディフェンスのバランスが悪くなっていったような気がする。それと押谷。あのペナ内でのプレーをシミュレーションと取られたのは納得がいけないだろうがカットとなって2枚目を貰ってしまうのはいかなものか。結果的にチームに迷惑をかけてしまうことを反省してもらいたい。（岐阜の誇り）

『清掃活動』に参加しました

3月22日に行われた清掃活動に参加しました。普段は自分の部屋を片付けるのも面倒なのに、こういう時になると一生懸命ゴミ拾いができるから不思議なものです（苦笑）。「JFL時代はグリーンズの人も多くなかったから、試合終了後に一生懸命ゴミ拾ったなあ...」なんて思いながら、短時間ではありましたが予想よりも多くの種類と量のゴミを回収することができました。個人的に意外だったのが、飴（のど飴?）の袋が多く落ちていたこと。小さいから拾われずにゴミになりやすく、またビニール製なので分解もされないためかなと思いますが...すぐにイメーজするのは「FC岐阜のど飴」。非常に残念ながら、確かに試合後のスタジアムによく袋が落ちていきます。できるだけ、スタジアムは綺麗に利用したいものです。この清掃活動の後、自分のアパートの周りを掃除してみたり、部屋の整理整頓をはじめたり...意外なところにも効果がありました（苦笑）。（ささたく）

グリーンズ参加者からお知らせします

今年予定されている長良川競技場での試合は今日が最後。特にトイレについてはご不便をお掛けして申し訳ございませんが、今日も「野球場・スイミングプラザのトイレ」又は「スロープ下の仮設トイレ」を使用をお願いします。なお、スイミングプラザのトイレ（特に奥側）は比較的空いているようです。あと「サイド・ホーム自由席」の観戦場所について。サンサンデッキからスタジアムに向かって左側が主なホーム応援席となっておりますが、向かって右側にも「サイド・ホーム自由席」は設定されていて、比較的空いています。ゆっくり観戦したい方はこちらもどうぞ。「7番入口」から入場出来ます。（シュナ）

ALADDIN

何も無い店だけど...
心の花が咲く...
何も無い店だけど...
心癒される...
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目（木ノ本公園東）

Living in Woods

本庄工業株式会社

<http://www.honj-woodream.com/>

「いらっしやいませ」より「おかえりなさい」が似合う

アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』はJR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休：日曜日

（今日はお休みです）

